



「CEIS40周年記念特集号①」の編集にあたって

社団法人環境情報科学センター（CEIS）は、2011年に設立40年を迎えました。1972年10月に環境科学分野の科学者、技術者により設立され、1977年9月に環境庁（現環境省）から社団法人の認可を得ました。日本学術会議に登録された協力学術研究団体の一つです。

CEISの設立趣旨を生かし、これまで、環境の恵みの利用と保全、時に災いをもたらす自然との付き合い、そして環境の開発と保全を考え、自然科学・人文社会科学の広範な分野の研究者、技術者、そして実践家の集まりとして、その知見と経験を交流し、環境学の分野で重要な位置を占めてきました。

CEISの特徴は環境に関連する学術や政策実践を広く追究する点にありますが、環境に対する国内外の認識が大きく変貌するなかで、分野横断的な情報および知識・知恵の解析と統合という意味での機関誌「環境情報科学」の価値は、ますます高まっております。

CEISは、近日中に一般社団法人として再出発する予定でもあります。これを機会に、長年CEISを支援してくださった多くの方々とともに、これまでの歩みを振り返りながら、今後の新たな発展の方向を見出すべく、機関誌「環境情報科学」編集委員会では、第40巻全体（2011年発行予定の4号）を通じて、設立40周年記念特集を組むことといたしました。

この間の国連人間環境会議、国連環境開発会議（リオサミット）の動きを通し、多くの環境への取り組みがなされ経済社会の持続可能性が問われる一方で、阪神・淡路の都市直下型大震災と、東北関東沿岸の大震災津波と原発事故という災いの連動を目のあたりにし、自然の不安定な上に私たちの暮らしがあるという厳然たる事実も重ねて経験してきました。

本特集においては、環境ないしはサステナビリティの思想的な変遷や、関連政策の変遷および関連科学・技術の進歩といった大きな視点を踏まえ、学術機関として、あるいはシンクタンクとしてCEISが果たしてきた役割を謙虚に見つめるとともに、今後のCEISのよりの確で先進的な活動のあり方を見定めることを目標としております。

以上のような全体構想のもとに、記念特集の最初の号に当たる第40巻1号では、丸田理事長からのメッセージとして「社団法人環境情報科学センター40年の歩みと今後の方向」、山田義征常務理事（事務局長）の回想をまず掲載し、次いで各界のリーダーより、環境情報科学センターの多彩な活動にあわせて「環境の半世紀」を語っていただきました。加えて、機関誌「環境情報科学」第1巻～第39巻の編集履歴を総括するとともに、「環境情報科学」の歩みを評価づけ、さらなる充実に向けた編集のあり方を探るために、歴代編集委員等による座談会を実施し、その内容を掲載しております。

また、この第1号をベースとして、第40巻2号以降では今日的で骨太のテーマを順次特集として組み、最終的には第40巻の全体を通じて、新たに発足する「一般社団法人 環境情報科学センター」および「環境情報科学」の展開の方向を模索していきます。皆様のご意見をお待ちしております。

（編集委員長 盛岡 通）